様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２０年２月１２日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：２００６－２００８
課題番号：18560630
研究課題名（和文）　ルドルフ・シンドラーの建築思想に関する建築意匠論的研究

研究課題名（英文）　Architectural Design Analysis on Rudolph Schindler’s Theory

研究代表者：末包　伸吾（SUEKANE SHINGO）
神戸大学・大学院工学研究科・准教授
研究者番号：10273757

研究成果の概要：

本研究は建築家ルドルフ・シンドラーの建築思想の特質を析出しようとするものである．本研究では，シンドラーの建築に関する主たる全論考を対象に，各論考で検討されている主題を項目として導き，項目の位置づけとともに，項目にみる各論考の位置づけとその変容を総体的・相対的に把握を行った．そこでは，シンドラーの論考から，前近代や近代の建築に対する言説や，自身の建築や空間，さらに具体的な設計に関する方針や手法にいたる言説を抽出し，シンドラーの建築思想の主題として【時代認識】,【空間建築】,【空間構成の方針と手法】という第１水準の項目とそれを構成する第2から第4水準の項目が導いた．

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2006 年度	600,000	180,000	780,000
2007 年度	600,000	180,000	780,000
2008 年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総　計	1,500,00	450,000	1,950,000

研究分野：工学
科研費の分科・細目：建築学・建築史・意匠
キーワード：ルドルフ・シンドラー，近代建築，空間，建築論

１．研究開始当初の背景

（１）ルドルフ・シンドラーの再評価の背景

近年，ルドルフ・シンドラー（Rudolph M. Schindler，1887ー1953）に関する大規模な

展覧会や書籍の発刊がアメリカを中心にわが国においても集中的に行われている.

こうした現象の背景には，これまで省みられることのなかったシンドラーを中心とするロサンゼルス近代建築の建築史的な再評価に止まらず，彼の建築作品，中でも彼の空間概念とその構成が有する特質が，現代建築の進展への直接的な寄与として評価されていることにある.

近代建築の最も重要な主題として「空間」があげられる.「建築」と「空間」に関する論考は，まず，１９世紀半ばから美学者を中心に開始される．２０世紀に入ると，近代建築の形成にともない，建築家たちにより「空間」が論じられるようになり，その後，ギーディオンにより，近代建築の特性が，３次元的な空間に時間の次元を加えた４次元的なものとして整理されることとなる.

（２）ルドルフ・シンドラーと「空間建築」

シンドラーは，１９１２年に著した論文「建築宣言」において，以下のように述べている.

「・・・旧来の問題はすでに解決され，様式は死滅した.（中略）

建築家はついに彼の芸術の媒体を見出した．空間である.」

近代建築における空間概念の重要性を指摘しその特質を導いたファン・モースによると，シンドラーの「建築宣言」は，建築家が「空間」を建築の主題とすることを表明した最初期の例に数えられている．さらに彼は1934年に主論となる「Space　Architecture」を著し，自らの建築の特性の定位を試みる.

シンドラーは，生涯に１８編の論考を残しているが，それらは全て「空間」と「建築」に関わるものであった．シンドラーは自身の建築を「空間建築」と呼び，生涯にわたり，この概念に基づき建築を創出してきた点での一貫性は看過できない.

（３）ルドルフ・シンドラーに関する既往研究と本研究の位置づけ

シンドラーに関する既往の研究は主にアメリカを中心に行われているが,その傾向は２期に分かれる．その第１期は，1960年代から70年代にかけてMcCoyやGebhardによって行われたもので，シンドラーの作品について年代に従って述べていく２冊の評伝である．そして第２期は 80 年代から現在にかけてであり，その中心をなすのが，シンドラー生誕 100 周年を記しての Sarnitz による著作・作品集や，シンドラーの活動の初期と後期に重点をおいた March と Sheine 編纂によるアンソロジーである．近年には，Steeleによるシンドラーの初期の作品に関する書籍や，Berns の編纂によるシンドラーの家具のデザインに関する書籍,Sheineによる評伝や作品集がある．しかし，これら第２期の研究において，シンドラーの作品や活動の時期に応じた詳細な検討が加えられてはいるものの，彼の建築作品や建築論の全てを対象にし，しかも包括的に分析したものはない.

２．研究の目的

建築家ルドルフ・M・シンドラー（Rudolph M. Schindler, 1887－1953）の建築思想の特質の析出を企図する研究として，彼が生涯に渡って著した主たる全論考を対象に，各論考に示された言説を抽出の上，言説からキーワードを主題として抽出し，それらを項目として構造化し，それに即して各論考の位置づけとともにその変容を総体的かつ相対的に把握しようとするものである.

３．研究の方法

分析対象は，筆者がカルフォルニア大学サンタ・バーバラ校シンドラー・アーカイブで収集した資料やSarnitzの著作をもとに，シンドラーの全論考を確定し，そこから特定の作品への言及や書簡・対談を除いたものを主たる全論考として抽出した．建築家の思想を，その言説に即しながら検討する方法は数多くあるが，本考察が目的とする，生涯にわたり展開された数多くの論考を対象に，総体的・相対的に把握し，その位置づけと変容を明らかにするため，奥山らによる一連の研究等を参考にし，下に示すように，シンドラーの論考から，前近代や近代の建築に対する言説や，自身の建築や空間，さらに具体的な方針や手法にいたる言説の抽出を行い，言説の主題をＫＪ法に準じて整理を行い項目として整理し，項目の構造化を行った．抽出した言説は論考番号－言説番号として整理した．以上の検討により，18の論考から228の言説を抽出し，そこから264の文節・単語を主題として導き，それらをＫＪ法による整理により 61 の項目に整理し，同様の方法により第４から第１水準の項目を導くとともに，項目ごとにその概念規定と変遷を明らかにする．

４．研究成果

考察の結果，シンドラーの建築思想の主題として【時代認識】,【空間建築】,【空間構成の方針と手法】という第１水準の項目とそれを構成する第２から第４水準の項目を析出した．ついで，各論考の内容を項目に着目して検討し，その位置づけを示すとともに，論文のタイプとして理念的なもの，手法的なもの，その中間なものとして整理可能であることを示し，さらに同様の視点から，シンドラーの建築に関する論考の変遷を示した．

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）

①末包伸吾，論考の主題とその構成にみるルドルフ・シンドラーの時代認識，日本建築学会計画系論文集，第638号，2009年4月（掲載決定）　査読有

②末包伸吾，主題とその構成にみる建築家ルドルフ・シンドラーの論考の特質とその変遷,日本建築学会計画系論文集,第627号,pp.1155-1164，2008年5月　査読有

〔学会発表〕（計７件）

①末包伸吾，固有性と普遍性をつなぐ空間構成の展開，意匠学会第49回大会，2007年11月10.11日　神戸大学

②末包伸吾：建築論の現在：方法論を語る－空間構成論から－，日本建築学会　建築論・意匠小委員会主催，第8回セミナー建築論の現在，2007年5月12日　京都大学

③末包伸吾：固有性と普遍性，日本建築家協会　JIAデザイントーク,2007年1月30日　大阪市中央公会堂

④末包伸吾：R.M.シンドラー／空間体験の魅力に迫る，日本建築家協会近畿支部講演会，

2006 年 10 月 5 日
ＴＯＴＯテクニカルセンター
（他３件）

〔図書〕（計２件）

①前田忠直，小林克弘，末包伸吾ほか４１名，建築論辞典，彰国社，担当部分：pp. 164-165, 248-249，2008 年 9 月，263 頁

②平尾和洋，末包伸吾ほか４名，テキスト建築意匠，学芸出版社，担当部分：pp. 3-49，編者，全体企画・編集，2006 年 12 月，223 頁

６．研究組織

(1)研究代表者
末包　伸吾(SUEKANE SHINGO)
神戸大学・大学院工学研究科・准教授
研究者番号：10273757

(2)研究分担者

(3)連携研究者